



**IV
中
東**

おしゃべり・サッカー・映画……

清水 学

マクハでのおしゃべり

エジプトにおいては庶民が余暇をどう過ごしているのだろうか。カイロのような大都市でも田舎の町でも、マクハ（コーヒーを喫む所という意で喫茶店）でトルココーヒーをすすりながら噂話に花を咲かせるのがつとより早い余暇の過ごし方である。埃と汗の臭いが満ちうす汚れたマクハで、時には水タバコを廻し喫みしながら近所の美人の噂、最近起きた小事件から始まり政治談義と、長々と話題は尽きない。マクハは床屋と並んで最もその地域の情報が集まる所である。

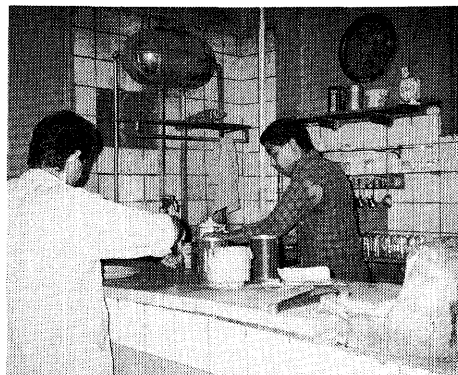
マクハがなんとなく黒っぽくてくすんだ感じがするのは、そこには男性しかいないためである。つまりマクハで井戸端会議を延々とエンジョイできるのは成人の男性だけに限られているのである。外部社会に出て行くのは、男性という伝統が生きている場所である。カイロのタハ

リール（解放）広場周辺のマクハには、仕事をさぼって無為に時間を潰す公務員がたむろしている。女性同士がおしゃべりを楽しめるのは家のなかとオフィス内である。

都市の近代的中間層は、ケンタッキー・フライドチキンやウインピーなどの外資系ファーストフード店やピザ店などで会話を楽しむ。店舗は採光もよく明るい。小ざれいなばかりでなく伝統的マクハと決定的に異なるのは、若い男女のデートの場所にもなっており華やいだ雰囲気を出していることである。さらに、カイロ、アレキサンドリアなどの一流ホテルに出入りするのには、庶民とはかけ離れた限られた上流階層ということになる。まだデイスコもファッションとして最先端を走っているとみなされている。

各種クラブでのスポーツ

エジプトに国民的スポーツがあるとすれば、それはサッカーである。プロのチームとして有名なのは「ザマールレク」と「アハーリー」であり、大衆は雑貨屋のテレビの前などに集まり、サッカーの試合の帰趨に熱狂する。



カイロのマクハ（喫茶店）

日本の相撲ファンの反応とよく似ている。各々のチームの名を付した週刊新聞さえある。アフリカ・トーナメントなどには大統領や政府高官も応援の観戦に出かける。一時期、ムバーラク大統領が観戦するとエジプト・チームは負けるといふジンクスが大衆の間で流布されたことがあった。あまりこんな状況が続くと、政治的影響力に陰りが生じかねない。

さて、本格的にスポーツをエンジョイするには、イギリス時代の遺産と思われるが会員制のクラブなどに入らざるを得ない。日本人の多くがメンバーであるザマーレク・スポーツ・クラブもエジプト人のエリート層がメンバーとなっている高級クラブであり、ゴルフ、乗馬、水泳、テニスなど各種スポーツが楽しめる。それ以外にも、軍将校クラブ、警察幹部クラブのような閉鎖的な特権クラブがある。また、やや劣るが技術者職能組合なども自分たちのクラブを持っており、憩える場所を確保している。しかしスポーツを一般庶民が気楽に楽しめるような条件はない。

映画・演劇・ショー

娯楽産業といった場合、映画・演劇は見逃せない。映画の愛好者は、インドほど裾野の広がりはない。インドの場合、映画は社会層を縦断し得る唯一の話題を提供しているといつてよいからである。それでもエジプトでは映画専門雑誌がいくつか出ており、大衆娯楽の重要な一翼を占めている事実は変わらない。

しかも重要なことは、アラブ映画界においてエジプトの比重は圧倒的だということであり、

おそらく九割近くのアラブ映画がエジプト映画である。冒険もの、恋愛ものが多いが、道化役も登場しドタバタ場面もちりばめられる。エジプト映画がビデオという新たな媒体も得て、全アラブ世界に拡大した。テレビでも映画は頻繁に放映される。量は少ないが、やや遅れて洋画やインド映画を上映している映画館もみられる。

演劇部門でのエジプトの伝統は長い。演劇関係者はイタリヤで勉強した者も多く、野心的な企画・演出を試みている。観劇のための入場料はやや高く、観客は中上流階層に限定されがちである。また、オペラ、オーケストラなども庶民には高嶺の花である。

ベリーダンス

よくアラブ世界のものとしてイメージされるベリーダンスは、女性の踊り子がおなかを出して体をくねらせながら踊るもので、そのセクシーさを売りものにするショーである。アラブ人で初めてノーベル文学賞を受賞したエジプト作家ナギーブ・マハフーズの代表作である有名な三部作の第一部『バイン・アル・カスライン』（通りの名前）に出てくる主人公の商店主が第一次大戦のころ毎夜遊びに通っていたカフェでのベリーダンスの叙述は、きわめて妖艶な雰囲気を与えている。

エジプトでは相変わらず外国人観光客向けのショーとしてベリーダンスが行われている。注目すべき最近の傾向は、アラブ女性の踊り子よりも、アメリカ人やヨーロッパ人の女性が出稼ぎ労働者としてベリーダンサーになって演じている場合が多いとみられることである。

なお、ベリーダンスを主催しているホテルはイスラーム原理主義者の批判の対象となつてい
ることを注意しておこう。

農民の間の遊び

さて今度は農民に眼を向けてみよう。どの国民、どの階層でも、娯楽産業
に依存しなくても自ら遊びを生み出す。エジプトの農民の間でも、農作業
の合間に砂地で石蹴りと同様に石をチェスの駒として使う遊びもある。

ところで、娯楽をほとんどもたないエジプト農民を対象とした小説もある。エジプトの魯迅
と名付けてもよい作家で、最近亡くなったユーシフ・イドリースの短編『最も安い夜』は、村
の仲間から疎外された農民が結局家に帰り、最も安上がりの夫婦生活の「愉しみ」に戻つてい
くというストーリーである。

産油国の石油収入の増大にもなつて拡大したエジプト農民の湾岸地域などへの出稼ぎの急
増は、農民たちをいまままで経験したことのない新たな消費文化に晒すことになった。湾岸から
帰国するとき大量に持ち込まれる日本製ビデオは、農民の余暇の過ごし方に影響を及ぼしたと
伝えられる。農民がビデオの前で過ごす時間が増えたという報告もある。もちろん、これが健
全な娯楽であるかどうかは別のことである。